

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 02-068080

(43)Date of publication of application : 07.03.1990

(51)Int.Cl.

A63B 53/02
A63B 53/00
A63B 53/04

(21)Application number : 63-220671

(71)Applicant : TABEI CHUZO

(22)Date of filing : 03.09.1988

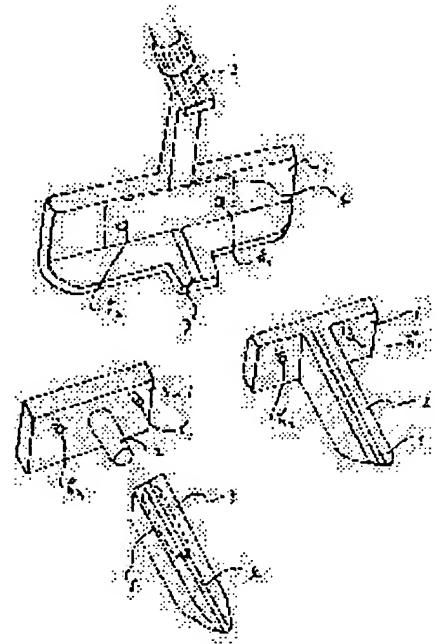
(72)Inventor : TABEI CHUZO

(54) BRADE CENTRAL PART DRIVING TYPE PUTTER CLUB FOR GOLF

(57)Abstract:

PURPOSE: To hit a ball in a target direction only for a target distance and to improve a golf score with exact batting by setting a second directional line, which crosses an optimum hit ball central line at a central point in the length- wise direction of a brade, and causing the sum of a first directional line and the second directional line to be about the 1.5 fold length of a golf ball diameter.

CONSTITUTION: The first and second directional lines of a putter club are matched to a target directional line (X-X1) and the club is exactly soled. Then, eyes are put in a position so as to observe the first and second directional lines as one straight line. Thus, a target surface can be set. A first directional line 2 and a second directional line 3 go to be one straight line and the position of the eyes is set so as to be matched with the direction of a hole. Thus, the target surface can be set. Further, in order to the direction to be exacter, the first and second directional lines are made in the direction of the ball correctly. Here, when take back is executed and the ball is hit while a condition that the first and second directional lines 2 and 3 go to be one straight line is kept, the batting of correct directionality can be executed.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

⑫ 公開特許公報 (A) 平2-68080

⑬ Int. Cl. 5

A 63 B 53/02
53/00
53/04

識別記号

府内整理番号

E

7339-2C
7339-2C
7339-2C

H

⑭ 公開 平成2年(1990)3月7日

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全7頁)

⑮ 発明の名称 ブレード中央部駆動式のゴルフ用バタークラブ

⑯ 特願 昭63-220671

⑯ 出願 昭63(1988)9月3日

⑰ 発明者 田部井 忠三 東京都小平市回田町260番8号

⑰ 出願人 田部井 忠三 東京都小平市回田町260番8号

明細書

1. 発明の名称

ブレード中央部駆動式のゴルフ用バタークラブ

2. 特許請求の範囲

(1) ゴルフボールに当接するブレード面を有するヘッド部、ネック部およびソケット部を有するゴルフ用バタークラブにおいてブレード面の最適打球面の中心部の後方部より、垂直に立上がるネック部が設置され、ネック部に第1の方向線とソケット部が配置され、ヘッド底部であるソールの上面に、ブレードの長手方向のはじ中央点の最適打球中心線と交わる第2の方向線が設置され、第1の方向線と第2の方向線の和が、ゴルフボールの直径の約1.5倍の長さとなる構造を有するブレード中央部駆動式バタークラブ。

(2) ゴルフボールに当接するブレード面を有するヘッド部、ネック部およびソケット部を有するゴルフ用バタークラブにおいてブレード面の最適打球面の中心部の後方部より垂直に立上がるネック部が設置され、ネック部に第1の方向線

とソケット部が配置されていて、ブレードの背面に、長い第2の方向を有するところの軽量物質でなる方向片を有するか、またはブレードの背面に方向片台を設け、それに着脱可能な構造を有するところの長い第2の方向線を有する軽量物質でなる方向片を有し、第1の方向線と第2の方向線の和がゴルフボールの3乃至4倍の長さとなる構造を有するブレード中央部駆動式のゴルフ用バタークラブ。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

この発明は、2つの方向線を有する中央部駆動式のゴルフ用バタークラブに関するものである。

[従来の技術]

第1図を用いて説明する、第1図A図は従来の典型的バタークラブのヘッド部、ネック部およびソケット部である。B図は重心部(CW)と駆動(D)を概念的に示している。

1. ヘッドの重心点とソケット部が離れているので次の欠点があった。

(1) 第1図 B図の如く、重心点と駆動部を上方からみたとき、両点間は離れていて、且つ重心点は一般に駆動点より前方にある(図では上方の方に)。このためにバッティングにおいて、テクパックのときと打球のときに重心がおくれるために打球方向に対して直角であるべきブレード面が直角でなくなる。

(2) 正確なバッティングをするためには、ヘッドの重心点の上方に目をおいておこなう必要がある。従来のバターでは重心点は駆動点より前方即ち、身体より遠い方にあり重心点の上方に目を位置してバッティングするためには、身体の上半身を極度に前かじめにして構えることが必要になる。これは無理な姿勢であり、バッティングにおけるねらいを定めることおよびバッティング動作に無理が生じてバッティングが不正確になる。

2. ヘッド重心部の垂直(上方)を示す標示線又は点の表示がないため、およびねらいの方向線が短かいまたはないことのために次の欠点があ

った。

(1) 目をヘッド重心点の垂直な位置におくことがむづかしいことおよびヘッドの重心点を鉛直面の円軌道で動かすことを確実に行ないにくい。

(2) ねらいの方向線がないか、または長さが不充分なために、テクパックと打球の方向がくるいやすい。このためにボール打出しの方向がくるい易い。

(3) 充分に長い方向線がないので、テクパックの量を定めにくく、そのためにボールをねらいの距離だけ正確に打ち出すことができない。

ねらいの方向線の長さは、テクパックの量の決定の目安にするために大切なものであるにも拘らず、ねらいの方向線がなかつたり、短かいものである。そのために従来のものは、ボールのころがる距離の制御が不正確になる。

(問題点を解決する手段)

1. バター・ヘッドのトウ(先端)とヒール(尾部)のほど中央にあるヘッドの重心点の、やや後方に、垂直方向に鉛直立するネック部を設け、ネック部の中間又は上方部に第1の方向台を設けて、その中に打球の方向を示すところの第1の方向線を設ける。
また、ネックの上方台にシャフトとネックを結合するソケット(結合部)を設けること。
2. バター・ヘッドのソール部(座部)の上面において、トウとヒールを結ぶ線に直交し、且つ最適打球面の中心を通る垂直線と交わるところの第2の方向線を設けることが本発明の主な内容である。

(作用)

これらによって、バッティングにおいて、ボールをねらい方向に、ねらいの距離だけ打つことができるようになり、正確なバッティングによるゴルフ・スコアの向上を図ることができる。

ものである。

(実施例)

以下、図面を用いて、本発明の実施例(1)を詳細に説明する。

第2図は本発明の1実施例のバターのヘッド部、ネック部、ソケット部の外観構造図である。第3図は本発明の1実施例のバタークラブの構造説明図である。

0はバタークラブのヘッド部、1はシャフト部、3は打球面でありブレードである。2はネックの上部台であり、9はブレード面の最適打球部であり、点線で示してある。10は最適打球部の中心を通る垂直方向である。

ブレード面の最適打球部の中心部の後方から垂直に立上る如く、4は設置されたネック部である。

4の上部には、2の上部台がある。5はネック上部台に設置された第1の方向線である。8は、ソケットであり、シャフト1とネックとを結合するところである。

6はヘッドのソールの1部であり、7はソールの上面にあるところの第2の方向線であり、ブレード面のトウとヒールを結ぶ線に直角に交わり且つ、最適打球面の垂直線と交わる如くに表示されているものである。

第3図は、重要な各部分の設定位置の相互関係を説明する図である。

第3図Aはブレード面の正面からの図であり、ネック部とブレード面の関係、ネック上方台とネック部との関係を、またネック上方台とソケットとの関係を夫々示している。

第3図Bはヘッドの上部からみた図である。また上部台における第1の方向線の位置とソケット8との関係を示している。

第1の方向線2と第2の方向線7の関係も示してある。

クラブヘッドを正規に構えて方向線を真上からみたとき、第1と第2の方向線は一直線になるごとに設置されていることを示している。

次にこの様な構造をもっている本発明に係る

バタークラブの機能、特徴および効果について説明する。

(発明の効果)

(1) (トウとヒールを結ぶ線即ち)ブレード面のブレがなくなり、打球の方向が正確になる。

第4図は説明のための原理図である。上部からみた図である。

(A)図は、ヒールの近くに、ソケットがある従来のバターヘッド部と本発明のそれを比較し表示した図である。図でCWは重心点である最適打球点を、DPはソケット部であり駆動点を示す。

(a)は従来形の例示であり、打球点であるCW1と駆動点DP1がはなれていて、その距離はRである。一般にRは3乃至6cm位である。

(b)は本発明にかかるバターについてであり、CW2とDP2との距離はなく即ち、重心点と駆動点は上方からみたとき一致していることを示す。

④図は、テクニックおよび打球のときのブレードのブレの様子を比較し示した図である。

(a)図は従来形について、ブレが発生しやすいことを示している。

(b)図は、本発明のそれであり、ブレは発生しないことを示している。

(2) 打球点を身体の近くに設定できるので、より安定したねらいとバッティングが可能になる。

第5図は従来形バターと本発明バター使用における打球点の差異を比較し説明した図である。

A図は従来形の、B図は本発明のバター使用における打球点の位置を示した。本発明バターでは、重心点が従来品に比して手前にある、打球点の差は、L1-L2で約5cm~10cmの差がある。

この分だけ、身体に近い点でねらいを定め、そしてバッティングが可能になる。

(1) ポールとホールを結ぶ假想上のねらいの

線は身体に近くになるので、ねらいの線の確認が容易になり且つ正確になる。

(2) それに続く、テクニックや打球も身体に近いところでおこなうるのでバッティングは、より安定し且つ正確なものになる。また、後述する鉛直面内におけるバッティングをおこない易くするものである。

(3) 鉛直面内での方向の正確なバッティングとボールのころがり距離の正確な制御が可能になる。

(4) ポールとホール(穴)を結ぶ鉛直なねらいの面内におけるバッティングがおこなえる。

第6図は、正確なバッティングをするための、想定上の鉛直なねらいの面である。

XX1はポールとホールを結ぶ直線である(ねらいの方向線)である。

YY1はXX1に垂直な直線である。ZZ1は打球方向XX1に直角な(ブレード面を含む)直線である。

正確なねらいとバッティングのためには両

目は、この船直なねらいの面の中にあることが必要である。

また、ヘッドの打球面の中心（ほど直心点に近い）も、この面内においてほど円軌道を保つことが必要である。ヘッド中心部の軌道を---線にて示した。

本発明のバターを使用するとき、ねらいの面の設定と船直面内のヘッドの円軌道運動と、正確な距離の制御ができるものであり説明する。

(a) 船直なねらいの面の設定と正確なバッティング

① ねらいの面の設定

ねらいの方向線（X-X1）に、バタークラブの第1と第2方向線を合わせ、クラブを正確にソールして、目を第1、第2の方向線が一直線に見える様な位置におく。これによりねらいの面の設定が可能になる。

第7図Aが説明図である。バターを構え

る場合の概念が上方にある。

下に、ヘッドを上からみた3つの図がある。向の図の如く第1の方向線と第2の方向線が一直線になり、また、ホールの方向に合わせる様に目の位置を設定する。これにより、ねらいの面が設定できる。

② 更に方向をより正確にするために第7図Bで向の如く、第1と第2の方向線が正しくホールの方向になる様にする。

③ これで、ねらいの面の設定、両目の位置の決定、ねらいの方向の確立ができる。ここで、第1、第2の方向線が一直線になる状態を保つつつ、テークバックし、つよい打球をすれば、方向性の正しいバッティングを行うことができる。この動作は、ねらいの面内で行わらる場合、正確なバッティングとなる。

④ ホールのころがる距離の制御ができる。第8図は正しい制御に關する説明図である。

Pはバターヘッドを、Bはボールを示す。

BS1はボールをD1だけころがすに必要なバックストロークの位置を示し、S1はそのときのバックストローク量を示す。

今2S1のバックストローク量をとり、打つときのタイミングを同じくし、加速して打ったときボールはD2の距離だけころがりB2に到着する。

D2の距離はD1のほど4倍の距離になることを示している

この様に、他の所量が同じである場合、バックストローク量はボールのころがる距離に大きく影響するものである。

以上の説明で判る通り、ボールをねらいの距離だけ正確にころがすためにはバックストローク量を正確に制御する必要があることが判る。

本発明では、ボール方向性の正確化のためだけでなくバックストローク量の制御の目安のために第1、第2の方向線を長くして

いるものである。

これを目安にすれば、バックストローク量を正確に定めて、ボールを打つことができるのでボールをねらいの距離だけ正確に打つことができるものである。

次に実施例(2)につき説明する。第2の方向線が長い場合初心者や中程度の技能の人の使用に適して方向性と距離制御の向上に役立つものである。

第9図は、その説明図である。

(a)は、本発明の基本となる実施例(その1)のバタークラブを後方から見た図である。

1はヘッド部、2は第1の方向線、3は第2の方向線である。4は、方向片取付部であり、h1, h2は方向片取付穴である。

(b)は固定式の長い方向片を示す。この方向片は軽量にできる。

1は方向片全体を示し、h1, h2は取付ネジ用の穴である。樹脂原材料が好ましい。クラブのバランスをほとんど変化させないと

めである。

2は方向台、3は第2の長い方向線である。これにより実用上充分な長さの方向線をつけることが可能になる。

(C)は、着脱式の方向片台及び方向片を示す。1は方向台、3は方向片、4は長い方向線を示す。

2は方向片台の取付軸になる部分で、図の場合テーパーのある円錐型台軸である。

3は点線で示す如く、2に嵌合し、且つ固定される円錐形穴を有している。

この構造であるので、バターカラブを使用後は方向片をはずすことができ、運転に便利である。

他の部分の構造や機能効果は先述の実施例(1)と同であり省略する。

4. 図面の簡単な説明

第1図は、従来のバターカラブの斜視図と重心部と駆動点の概念的位置図。

第2図は、本発明のバターカラブの斜視図。

2. ネック上部台、0. ヘッド部、1. シャフト部、3. ブレード(打球面)、4. ネック部、5. 第1の方向線、7. 第2の方向線、8. ソケット部

第3図は、本発明の重要な部分相互関係の説明図。

第4図は、従来バターカラブと本発明バターカラブの機能比較説明図。

第5図は、従来バターカラブと本発明バターカラブの打球位置の差異説明図。

第6図は、正確なバッティングをするための、想定上の鉛直なねらいの面の説明図。

第7図は、鉛直方向とねらいの方向を設定するための説明図。

第8図は、ゴルフボールのころがりの距離を制御するための説明図。

第9図は、長い方向線を有する固定用方向片又は方向台と着脱可能な方向片を有するところの他の実施例のゴルフ用バターカラブの説明図。

A図で

1. ヘッド部(の裏面)
2. 第1の方向線
3. 第2の方向線
4. 方向片又は方向台取付部分

h1, h2、方向片又は方向台取付用穴である。

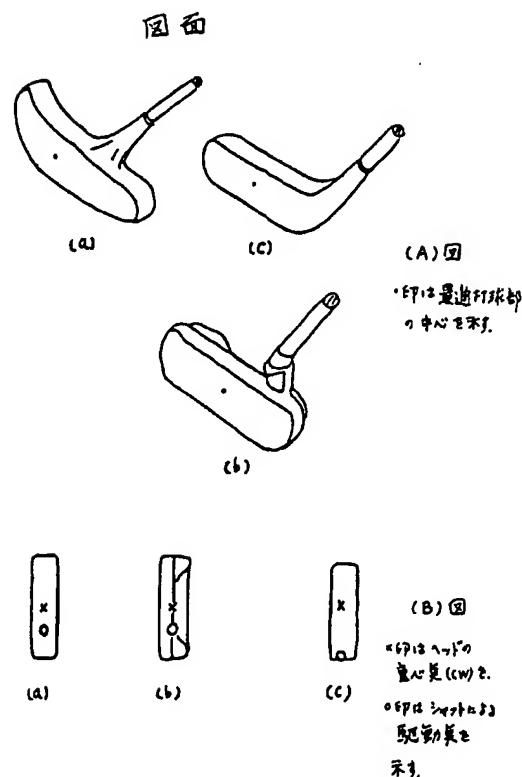
B図で

1. 方向片(全体)
2. 方向片
3. 第2の方向線

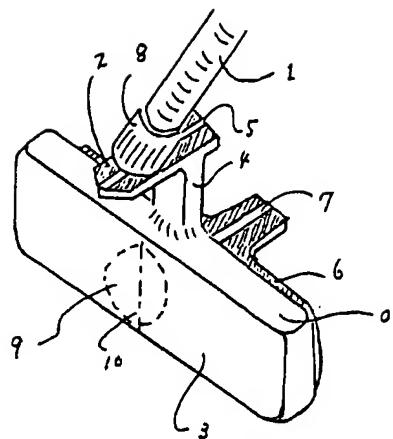
C図で

1. 方向台
2. 方向片取付軸
3. 方向片
4. 第2の方向線

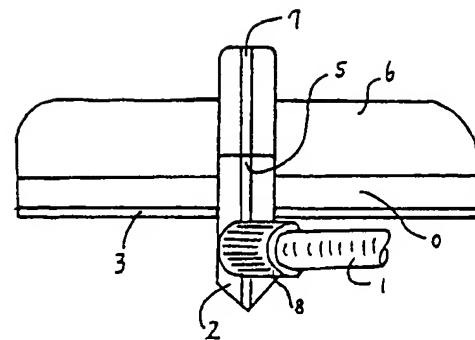
特許出願人 田部井 忠三



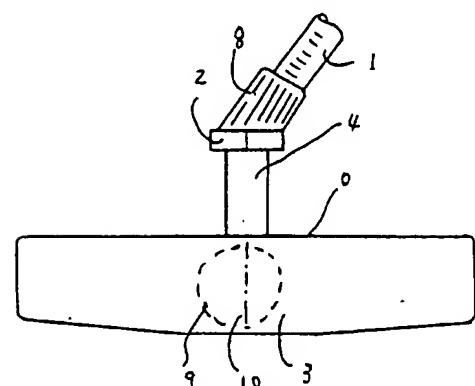
[図 1 図]



[第2図]

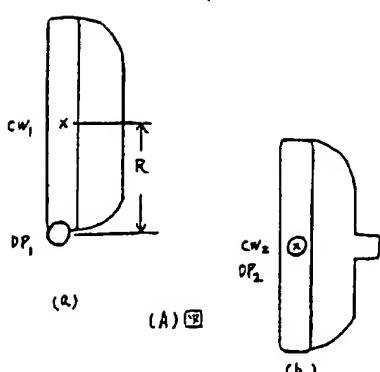


B.



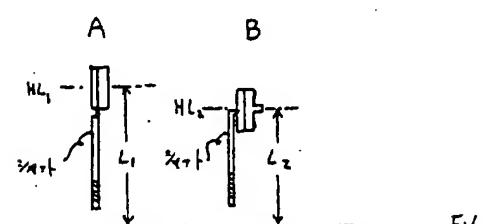
A.

[第3図]

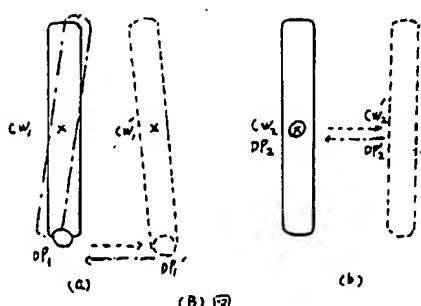


(a) (A)図

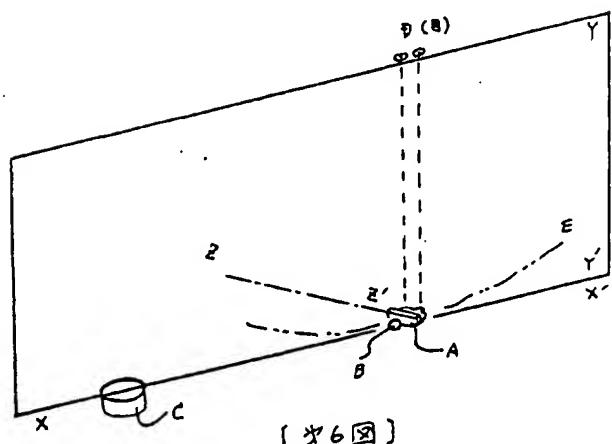
(b)



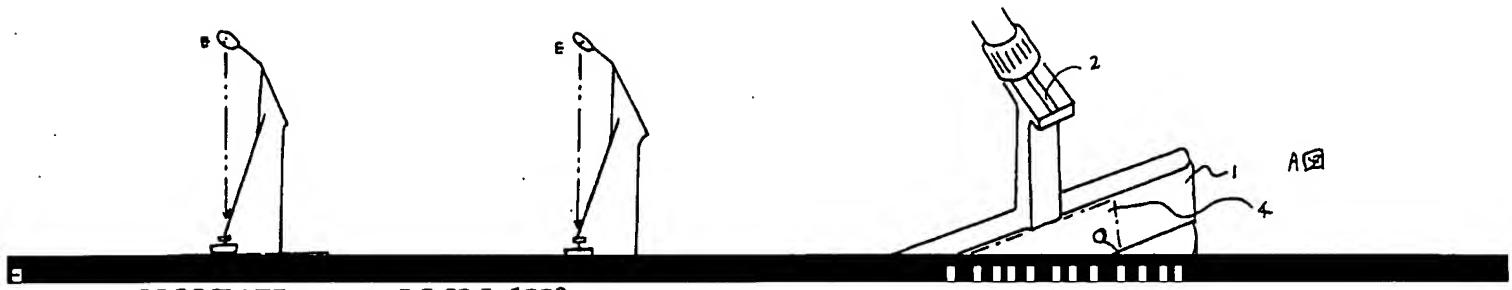
[第5図]



[第4図]



[第6図]



00000 DATE: 00000,1000

VEATO AT:

0A0 E
TA0E0,00000

ASSASSINEE AT :

0A0 E 0000T00
TA0E000000 0A

A000000 : 0003220001

ADDRESS: Seeger 3, 1088

□ T□□□□□□□: A□3□0□3,02,A□3□0□3,00,A□3□0□3,04

AUSTRIAN